

あわじ



勇気で有機に
向かいます!

人口の動き
—3月1日現在—

男	4,069 (-8)
女	4,179 (-8)
計	8,248 (-16)
世帯数	2,293 (-3)

() は前月比較

◆表紙の写真◆

米や野菜の有機栽培を進める「NPO 魚沼ゆうき」の皆さんです。

この日は、定例の勉強会が橘地区農事研修センターで開かれました。午後1時から6時近くまでの、約5時間にわたる長丁場でしたが、「勉強」というムズかしい雰囲気ではなく、有機栽培をめぐる現状や、今後の見通し、今年の計画などがざっくばらんな雰囲気の中で進められました。

「俺は去年こうやって失敗した」「そら、〇〇さんがうまい方法を知ってるぜの」「こういう機械もあるげだ」「ほう、いくらぐれだべ」「今年、(水田除草のために)鴨を飼ってみよと思わんだ」「俺は〇〇だ」…

…生の情報が行き交う場は、「これから」「初めて」「チャレンジ」「目標」「希望」という空気に包まれていました。

— contents — 主な内容 — contents —

- P2~5
- ⇒ 特集 地域ビジネスが生まれる①
- P6~9
- ⇒ 真剣に考えよう合併について
- P10
- ⇒ 生産調整目標面積を配分
- P11
- ⇒ おらムラの話
- P12
- ⇒ スキー大会結果・生涯学習だより
- P13
- ⇒ まちの話題・だんだんどーも ほか
- P14
- ⇒ お知らせコーナー
- P15
- ⇒ 俳壇／くらしとけんこう ほか
- P16
- ⇒ ちいさな展覧会・いっぶく

特集

地域ビジネスが生まれるへ①

資源循環型社会の到来が語られ、これに向けた取り組みが様々な形で始まっています。先月号で取り上げた生ごみリサイクルもその一つですが、延長上にある農業、とりわけ稲作での有機栽培へのチャレンジが続いています。先頃、県下でも先進的な(特定非営利活動法人)「NPO 魚沼ゆうき」が設立され、具体的な活動へと動き始めました。

また、千手温泉・千年の湯を核とする「賑わい空間」周辺では、実験的商業活動への取り組みがスタートしました。

まちづくり塾「川西結」のフォーラムと併せて、これらの動きを二回シリーズで紹介します。

盛会 まちづくりフォーラム

二月十三日、総合センターで川西結まちづくりフォーラム「資源循環型社会とこれからのまちづく

り」が開催されました。これは、資源循環型社会の構築が、社会生活営むうえで欠かせないものになつて来つつあることから、これらの視点に立ってこれからのまちづくりを考えようと開催されたものです。平日にもかかわらず約百人の参加者がありました。フォーラムは、各界で活躍されている方々から、日ごろの活動の中で感じたことや、他地域の事例などを紹介してもらいながら意見

交換が進められました。

まず、「つながって、よい地域をつくろう」と題して民俗研究家の結城登英雄氏の講演がありました。

豆腐でつくる消費の流れ



結城 全国で七〇〇くらいの町村を歩いてきました。その

中で感じることは、耕作放棄地も空洞化商店街も同じ村、同じ町で起こっていることなのに、互いに相手のせいにすることが多いということです。これをみんなの課題と受けとめ、解決に向けて協力し合う関係にしていけないとまちは再生できないと思います。

今から三〇年前は、消費するもののうち約六割はその地元で賄っ

ていました。つまり、地域の中でまわる経済が成り立っていたわけです。

今は、九割以上が外部、それも外国からの輸人品が多くを占めています。豆腐を例に取ると、原料となる大豆は九七割が輸入ものです。「転作大豆は高い」というのがその理由です。しかし、中には、豆腐の消費量の約三割を地元の大豆で作っている町もあります。

農家は大豆を豆腐店に納め、豆腐店は現金のかわりに豆腐引換券を渡す。農家はその引換券で豆腐を買って食べたり、他の人に贈ったりする。消費者も、地元でとれた大豆で地元の豆腐店が作った豆腐を地元の商店で買って食べることに喜びを感じる。そうして、農

いるわけです。

二・三億円市場をねらえ

ここ川西町は約二、三〇〇世帯ですが、これは約二・三億円の食品市場だと言い換えることもできます。このうち何を地元の農地で賄っているでしょうか？

地元でとれたものを地元で消費することをよく「地産地消」と言いますが、これをもう少し深く考える必要があると思います。つまり、これは、「作ったから買ってくれ」ではなく、地域で必要な食品・商品の消費量をきちんと調べて、「地域の人が欲しいものを必要な分供給する」という意味だということなのです。

川西町で作られていないもので、食卓が求めているものがきつとあるはず。これを探し出して原料を生産し、加工し、流通させることで確実に地域の自給力が上がり、二・三億円市場が地元でまわるようになると思います。

それには条件があります。冒頭で話したように各分野がばらばらにやっただけだということ。消費者、農家、商人、JA、行政が一体となって取り組む必要があります。

ポイントは七つ

良い地域というのには、次の七つのポイントがあると思います。



平日にもかかわらず大勢の参加者がありました

- ① 良い仕事の間があること
企業があるという意味にとどまりません。ばあちゃんが運営する野菜の直売所だつて立派な仕事場です。
- ② この市場は全国で二、四〇〇億円です。(山形県全体の消費量に匹敵)
- ③ 良い居住環境があること
- ④ 良い文化(生きがいや、楽しみ)があること
- ⑤ 良い学びの間があること(例:大根の保存方法等)
- ⑥ 良い仲間がいること
- ⑦ 良い(住民と一緒に考えて考える)行政があること

今、農家、農地にとって不幸なのは、お金になる作物が作れないということではなく、都市の市場原理に振り回されて、その土地に合わないものを育てなければならぬということ。土が持つ本来の教育力や回復力は、地域に必要なものを生み出すことで発揮されます。もう一度土を取り戻すことで、次の世代が感謝してくれる、いいまちづくりにつなげていってほしいと思います。

地域の希望は足元にある

続いて「資源循環型社会とこれからのまちづくり」と題して、パネルディスカッションが行われました。出席者は次の方々です。(敬称略)

コーディネーター
伊藤 忠雄(新潟大学教授)

パネラー

結城登美雄(民俗研究家)

篠田 昭(新潟日報論説委員)

清水 悟(農文協文化部長)

宮井富士子(まちづくりアドバイザー)

田口 直人(川西町長)



伊藤 河川の護岸工事でソダ(柴木を束ねたもの)沈床が見

直されています。永久建築と言われたコンクリートが五〇年しかもたないのに対して、ソダだと一〇〇年はずっと言われています。し

かも、魚が棲む環境も保持され、自然に近い形で防災対策が進められるわけです。こうした知恵は今生まれたのではなく、昔からの知恵の結晶です。足元にあるもの、暮らしの中にあるものを見直し、新しい資産にしていくことは、地域が自立できるという「希望」にもつながります。こういう資源循環の仕組みをどうつくっていく、たら良いのかを各氏に伺います。

真の川西ブランドのために



篠田 二十世紀は、東京が権限・人間・財源の三つの「ゲン」

を奪った世紀と言われています。つまり、資源収奪型社会だったわけです。二十一世紀は、東京のモノサシでなく、地域のモノサシでものごとの価値が決まっていく社会にしていかなければなりません。実際に、自分たちの足元に古くからあるものを見直してまちづくりにつなげている事例(小布施町、会津若松市、長浜市、山形県小国町など)も多くあります。①町の資源を掘り起こし、②それが日本や世界にとってどういう位置にあるのかを外の目も含めて評価し、③それを地域の特産・ブランドにしていく、という実行に結びつけることが大事だと思います。



清水 これまで、日本は空前の経済成長を遂げた結果、貧困

豊かさはどこにあるのか

川西町には、食材・自然のほか、演劇やまつりなど独自の文化が多くあり、外部の評価は高いものがあります。こうした資源を結びつけて交流人口を増やし、存在感のあるいい町にしていってほしいと思います。

からは脱却できたものの、生活文化が画一化され、山の価値がゼロになり、人と人の協働性が弱まってしまいました。

しかし、モノ余り現象から人々は気づき始めました。農業、水、土、昔からの知恵など、経済の尺度だけでは推し量れない価値があるということ。

スーパーで買ったもので料理するのと、自分で作ったもので料理するのでは、どちらが「豊か」なのか、ということが分かってきたのです。ゼロ成長でも豊かさを実感できる時代に入ったともいえます。

特に、郷土食は地域の気候風土を生かしていることから、取り組みがしやすいと思います。

山口県などの先進事例もありますが、川西町は実際に動き始めています。寒九のトロロの里づくりや有機の里の取り組み、仙田の野菜の直売などがそれです。

そして、こうした意欲的な取り組みを支えているのが女性、高齢者の方々です。ようやく出番がまわってきたという感じでしょうか。

これからは、これに子どもたちを巻き込むことが重要だと思えます。総合的な学習の中に女性や高齢者の知恵、農業、山の仕事など、暮らしに結びついた教育を取り入れることで「人間が暮らししていく」ということはどういうことか」が、

自然と身につけていくと思えます。教育現場と地域が結びつくことが急務です。

危機感も大事な要素



富井 「生き

ているものすべてに存在価値がある」という気持ちになることが大事だと思います。今までは、稼いでいる人しか発言権がありませんでした。雪が平等に降るように、みんなが平等にもの言える、やさしい社会になることが必要だと思います。

そして、「まちづくり」というと漠然としていて一般のひとにはなじみにくいので、生きる、食べる、育むといった言葉に置き換えて考えてはいかがでしょうか。

私のふるさとに近い仙台では、デパートの売り上げが好調だと「今年は豊作だったのだ」と、その理由を語るのが普通でした。つまり、農と商の連携がうまくいっていることの表れです。

川西町は、隣の高柳町と比較するとまだ恵まれているところがあって、危機感が弱いような気がします。高柳は高齢者が多く、二十先年の日本を生きているという危機感があります。だから、買い物などでも、少々高くても町の中で買おうという運動が起きています。生ごみリサイクルの活動をして

いると、よくお年寄りからお問い合わせの電話があります。聞いてみると、分からないことが聞きたいのではなく、話し相手が必要から電話することも多いようです。

この地域では、一家の中に生産と消費が同居しています。家族の中で「今年は何を作ろうか」と相談するような環境づくりが大切だと思います。

そして、「川西町の農産物は安全」、「子育てするんだったら川西町」というような町になってほしいですね。

手づくり料理二、三〇〇品!

結城 宮城県の宮崎町には、スーパーもコンビニエンスストアもファミリーレストランもありません。

男たちは、集まれば酒を飲んでグチばかりこぼしていました。しかし、女たちのおしゃべりの席には、必ず手づくりの料理、菓子などが集まります。これを、全町でやってみたらどうかと呼びかけたところ、体育館に一、三〇〇品もの郷土食が集まり、食べに来た町外の人たちで長蛇の列ができました。

誰よりもびっくりしたのはその町の人たちで、自分たちの日常の食べ物にこれだけの人たちを集める力があることを学んだわけです。今度は、これがいつでも食べ

られるレストランを作ろうと動いています。

地域には、様々な力が蓄えられています。発揮する場が少ないのです。そういう場づくりが必要だと思います。

資源循環型社会とは、次の世代が生きていける社会のことです。日本人が一年間に食べる穀類は、米が四一、〇〇〇円分、麺が一九、〇〇〇円分、パンが一八、〇〇〇円分だといわれています。

黒川村が米のパンを作りました。米の消費量をパンに上乘せしようと考えているわけです。さんびらパン、ひじきパン、野沢菜パン、川西町にも、こんな「米の」パン屋さんができないでしょうか。

その気になろう



田口 住んでいる人たちと行政が共同作業しながら、ひとつ

の物事を作り上げていくことが、住民にとって満足のいくまちづくりになるのではないかと考えています。

税金を納める人だけでなく、農業、商業、女性、お年寄り、いろんな立場の人たちが大勢で関わるのが、納得のいくまちづくりになると思います。仙田体験交流館や千手温泉千年の湯での取り組みで、その成果が出てきています。

こうした拠点は、小学校区単位であるのが理想ではないのかなと考えています。

川西町には、雪や気候が育んでくれる新鮮で安全でおいしいものがたくさんあります。もっと自信を持っていいと思います。これをさらに内外に広げていくために進めようとしているのが「エコタウン推進事業」です。

エコタウンの心は、有機肥料や廃棄物資源を活用して、「価値の高い安心できる農産物を作っていく」ということです。

これまで、「いっぱい穫ろう」「機械、肥やし、薬をうまく使おう」という気持ちが強かったわけですが、生ごみリサイクルのように、「自分たちのごみ自分たちの食べ物につながるんだ」「本物の味とはこうなんだ」という気持ちになれば、資源循環型社会の実現は可能だと思います。

今年、その気になって進めようと考えています。

伊藤 川西町には、二か月に一回くらい来ています。そのたびに新しいことが起きています。有機の取り組みが始まり、生ごみリサイクルに発展し、さらに有機栽培のNPO組織まで生まれました、それもごく短期間に。これは東京や新潟市では不可能なことです。川西町には、人の和、地域の輪がそれだけあるということ。

その力が発揮されれば、新しい価値のある資源循環型の地域をつくり出すことは、十分可能だと思います。

地域の資源を見つけて磨きをかけ、それが新しい価値になって地域の中でまわっていく、という資源循環型社会の実現へ向けた取り組みは、身近なところに視点を置くことが重要なようです。

誕生「NPO魚沼ゆづき」

そして、その中では、「農業」「食」「米」といった切り口が欠かせない要素でもあるようです。

そうした分野で、新しい取り組み、チャレンジも始まっています。今年の一月二十五日付けで特定非営利活動法人（NPO）として認証を受けた「NPO魚沼ゆづき」がそれです。

二月十一日、町内外の農家、消費者、行政関係者などが集まって発足記念式典が行われました。

この会は、①JAS法（農林産物の規格化及び品質表示の適正化に関する法律）に基づく有機栽培認定者及び申請予定者、②減（農薬）減（化学肥料）農業の実践者、③非農業者で会の目的と事業に賛同する特定の協力者で組織し、設立時の正会員は十四人です。このうち、①のJAS認定者は十二人で、一法人での認定取得数は県内で最も多いものです。



勉強会では「いいとうちゃん衆」が酒も飲まずに5時間も語り合います

「コシヒカリの時代」が終わる

こうした取り組みは、全国的に広がりがつつあり、この動きについて、前出の伊藤忠雄新潟大学教授は「新潟コシヒカリの時代が終わりにつつあるということですね。今は、他県の米も食味はみんな良くなってきており、不況のあおりもあって財布のひもが固くなり、「味がそこそこ良くて、安ければ満足」という消費者の心理を反映して起きている、産地の生き残り対応の動きでしょう」と分析します。

つまり、「新潟の魚沼のコシヒカリは、うまいが高すぎる」というのが全国の大方の消費者の評価のようです。このことは、「最高級」よりも、値段はそこそこで「安全、安心の米を食べたい」という欲求の方が上向いてきていることも表しているようです。

こうした流れの中で、今回NPOを立ち上げた一人、理事長の山岸勝さん（54／木島）にお話を伺

いました。

情報をオープンにします

— NPO法人を立ち上げたわけとその効果は？

山岸 今、川西町の稲の作付面積は、約八〇〇町歩で、そのうち、JAS法にのっとった有機栽培面積は一六町歩で全体の二割にすぎません。まあ、変人扱いされるわけです。農業や化学肥料を使わないで稲ができるわけがない……

でも、実際にやってみると、想像しているより容易にできるんです。だから、少しずつですが取り組み仲間が増えていきます。これを、できれば全体の一〇割くらいに広げたいと思っています。そのためには、いろんな人に見てもらったりに参加してもらったりすることが大事になります。これを進めて行くには、個人やボランティア団体では、取り組み内容にも方法にも限界があります。

だから、農家だけでなく、消費者や商業関係者が入った組織にして、情報をオープンにしていることを考えました。対外的にも信頼性が増しますし、小さいですが雇用の場も生まれます。また、活動に公の責任も生まれますから、自分たちの自覚を促す働きもあります。

「きまぐれ」から「いい

これからの活動予定は？

山岸 まず、新たな会員募集を呼びかけています。勉強会を開くのもそのためです。

苗や肥料、植付け、管理、除草、刈り取りなどのノウハウは年々積み重なっていますし、いつでも情報提供します。



「有機栽培は決して奇抜なことではありません」と語る山岸さん

また、いきなり無農薬、完全有機では抵抗があると思いますので、減（農薬）減（化学肥料）栽培など、できるところから取り組みだらいかがでしょうか。今のところ、四月から十二、十三人会員が増える予定です。最終的には、三十人くらいになるんじゃないでしょうか。

今年の取り組みで力を入れたいのが子どもたちへの働きかけです。子どもは本当に素直で純粋です。環境を守り、健全な作物が実り、安全な食物になることがとても大切だということを心から理解してくれれます。

そのことをもつと実感してもらうために、バケツ栽培を勧めたいと思います。バケツに一株、完全有機の稲を植えるだけで秋には見事な穂が実ります。これもいつで

もノウハウを提供していきます。

生産者として共存を

— 今後の課題は？

山岸 生産のめどはだいたい立つのですが、販売ルートが確立が今後の課題の一つです。広く消費者に知ってもらう活動やインターネットを活用したPRにも、もつと力を入れたいと考えています。

また、価格面でも、今はJAS認定の有機米はとても高いのですが、生産量が上がっていけばこれも値下げできるようになっていくと思います。

私たちの活動は、単純に「安全でうまいもの」を作っていくというもので、決して今の生産方法や組織に敵対しているわけはありません。同じ生産者として共存していきたいと思っています。

近頃の輸入農産物や食品加工をめぐると混雑を例にひくまでもなく、「食」に対する認識は、「量」↓「味」↓「安全」へと確実に移行してきています。

こうした、消費者や社会の流れを受けとめて、す早く、確実に、地域の中に溶け込んでいく活動を進める先に、地域ビジネスの道が開けるような気がします。

次号では、賑わい空間のエリアで始まるうとして、実験的商業活動の動きをレポートします。

真剣に考えよう 合併について

その五



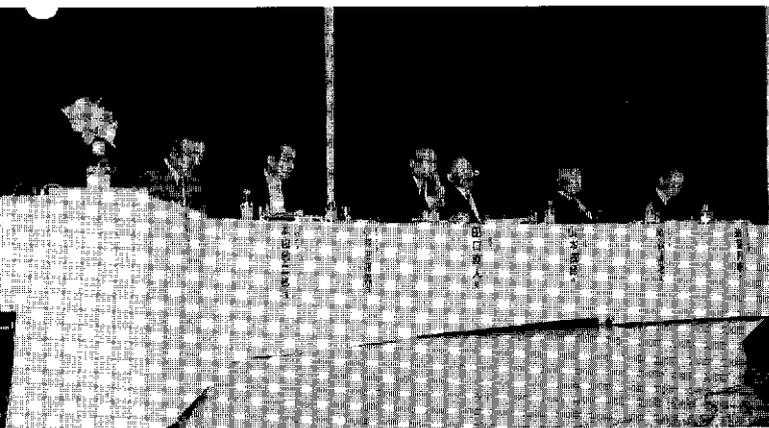
二月号に引き続き、市町村合併に対する意識調査（アンケート）の結果をお知らせします。今回は、問十一（市町村合併）についての自由意見）に回答されたご意見を紹介します。

ご意見は、一五八人の方からお寄せいただきましたが、問六で「合併は必要」、「どちらかといえば合併は必要」、「どちらかといえない」、「分らない」と回答された人ごとに分け、それぞれのご意見の数に応じて紹介します。

また、この度の意識調査（アンケート）は、現時点での、住民の皆さんの一般的なお気持ちを把握するために実施しました。この結果、情報提供の方法や量に課題を感じましたし、合併問題に対するお考えにも非常に幅広いものがあると改めて認識することができました。

問六で「合併は必要」と回答された方のご意見

- 合併で川西町が「市」になるとは大変良い。（二十代女性）
- 財政を考えると悠長な立場はとれない。合併後は、住民の意見が行政にとどまらなくなると思うが、今まで都市に比べれば過剰に反映していたのでないか。行政サービスの低下も少しくらいは甘受すべきだ。住民負担の増加も、合併しないほうがより大きい。新設合併とすべきだ。（二十代男性）
- 合併は避けて通れない。合併協議で有利な方向に導く町の力量を期待する。頸城との合併は必要ない。十日町の赤字は背負いたくない。（四十代女性）



様々な意見を交わすことによって方向が見えてきます（昨年10月の6市町村長による意見交換）

- 心情としては気が進まない住民が多いと思う。合併は、国の構造改革の重要な柱だと思っているので断れない。時間ばかりかけても解決しない。重要なのは協定書の内容をどう良くするかだ。（五十代男性）
- 町長の考えを早く明確にし、指導力を発揮してもらいたい。（五十代男性）
- 特に負債などの情報提供が甘すぎないか。にぎわい空間の建設費、維持管理費など全て入れたのか。隠し事のない情報提供をしてもらいたい。（五十代男性）
- 事前協議や合併協議会ではリーダーになるくらいの強気でやってもらいたい。協議の経過を広報などで知らせること。（六十代女性他）
- 川西町が関係市町村との協議の中で優位に立てるよう、早く町民と話し合いをするなどしていろいろな問題の検討を進めてもらいたい。合併には、町民が納得のいくよう住民投票も考えてもらいたい。中心主義でなく、バランスのよいまちづくりをしてもらいたい。（六十代男性）
- 住民レベルで合併の是非を判断できる意識、知識が高まっている段階でのアンケートは疑問である。是非か住民判断を容易にするための取組みを行政に願いたい。（六十代男性）
- 合併が避けられないのなら、特

● より良い生活ができるようになるのだったら合併も必要。でも、「今しなければ」という危機感が

問六で「どちらかといえば合併は必要」と回答された方のご意見



- 例法の期限内が良い。合併で失職する人は消極的立場になるが、前向きに検討を。合併で個性が薄れるというが、その個性は昭和の大合併から五十年しかたつてない。（六十代男性）
- 先ず合併して、不都合な点は直してゆけばよい。（七十代以上男性）
- 住民の不安事項は、専門委員会で研究討議して解消すべきだ。（七十代以上男性）
- 新名称で合併を。（七十代以上男性他）
- 合併の不安よりも、せっかくのチャンスを見逃さないかと不安を感じる。（七十代以上男性）
- 合併協議会で地域産業の活性化や克雪対策など十分議論を尽くし、平成十七年にこだわらず進めてほしい。（七十代以上男性）

ない。住民を納得させてから話を進めてもらいたい。(二十代女性)

●十日町市のいいなりの合併はしてほしくない。新潟・黒崎の合併のように、周辺にお金を使ってもらいたい。新しい名称にしてほしい。(二十代女性)

●合併するか否かより、その過程で十分に行政同士で、また住民同士で話し合いが行われることが大切と思う。また、話し合いの結果が確実に住民に伝わり、納得のいく説明がなされることを期待している。合併後の生活がどうなるか、もう少し具体的な事例を上げてほしい。(二十代女性)

●じっくり基盤づくりしてからの合併が良い。新しい名称にしてもらいたい。住民がどの方向についていけばよいか、要所要所での素早い決断をしてもらいたい。(二十代女性)

●合併をしてもしなくても行政サービスが向上するとは考えにくい。財政規模よりも職員の能力の問題が大きい。きれいな田舎づくりと情報基盤整備をすれば、田舎の方が住みやすくなる。(二十代男性)

●少子高齢化で住民負担が高くなったり、サービスが低下するのではないかと心配している。現在、合併しない場合の国の支援がはっきりしないので、合併の必要性は判断し兼ねるのが本音。

(三十代女性)

●国から補助金が出るからと目先のことにとらわれなくて、ゆっくりに時間を掛けたほうが良い。「効率的」には疑問を感じる。不便の良さ、無駄の良さ、自然の良さ、：効率的でないものの良さを、ここで生活する人間はもつと大事にしていったほうが良い。(四十代女性)

●合併して川西町が今より良くなるとは思われない。十日町だけに重点が置かれぬか。税金が高くなって、サービスが低下することはないか。かと言って、取り残されるのも困る。(四十代女性)

●基本的には合併は賛成。個人的な利害だけを言っているのは、将来の日本がダメになる。町会議員の先進的建設的な意見に期待する。(四十代男性)

●合併のメリット、デメリットを

もつと具体的に教えてほしい。(四十代男性)

●過疎化の激しい町は、国の支援がなければ立ち行かなくなる。健康やかに生活していくためには止むをえない。今まで育んだ文化や芸能を大切に、新たな気持ちで新たな市に親しんでいくことが大切。(五十代女性)

●合併についてもつと情報を出し説明し、住民が理解してから時期や範囲などを聞くべきだ。合併問題よりも、働く場所の確保が先決の気がする。(五十代女性)

●川西町の住み心地の良さに感謝している。合併しても人情と安らぎが廃ることのないように。(五十代女性)

●現在の行政サービスに満足しているので急ぐ必要はない。合併は、「行財政基盤の強化のため」といつているが、収入に関する説明がほとんどされていないので、この面では判断できない。(五十代男性)

●中魚三町村長の見解に同感。住民が理解してからの判断が重要。時間的制限のみで結論を導くことは避けてほしい。(五十代男性)

●合併は時期尚早と思うが、将来避けて通れないものであれば平成十七年三月三十一日までが望ましい。(五十代男性)

●個人的には反対であるが、国や自治体の財政を考えると合併は必要。(五十代男性)

●調査票を見るまでは、その日を平穩に暮らせればと、合併については考えたことはなかった。これからは、周りの人の意見も聞き、もつと真剣に考えなければと思つた。何か不安が大きい。(六十代女性)

●国県の財政支援が無ければやっていけないだろう。合併せざるをえない。小さな村々で同じ施設を造って共倒れするよりも、広い視野でやってもらいたい。(六十代女性)

●合併しないと川西町が取り残されるのではと心配になり、合併すればきめ細かなサービスが受けにくくなるのではと不安になる。(六十代女性)

●合併しても、住民の意見が行政に届きにくくなることのないように、中心地だけが栄える事のないように願いたい。(六十代男性)

●合併は必要と思うが、不安が大きい。川西町の行政サービスは心のこもったサービスだ。合併すると行政と住民の心のつながりが薄れてしまう。合併しても安心して住める行政をしてもらいたい。(七十代以上女性)

●社会情勢不安定な昨今、事を急ぐ必要なし。じっくりと時の流れを見極めてからでよい。(七十代以上女性)

●高齢者サービスも充実しているので、これ以上は望んでない。し

かし合併は避けられない。合併は各市町村の共存共栄でなくてはならないし、行政の都合でなく住民本位で考えてもらいたい。(七十代以上女性)

●今の川西町が好きだ。静かで人情もあり、豊かな自然と暮らせる幸せを感じている。(年代不明女性)

問六で「どちらかといえば合併は必要ない」と回答された方のご意見

●今の生活で、行政や住民サービスに不満を感じることはない。もし合併ということになったら、サービスの低下や税負担が増えることのないように願いたい。(二十代女性)

●私は川西町が好き。大きな市町村と違って温かさを感じる。町のサービスに満足している。できれば今のままが良い。でも、将来財政面で苦しくなるのであれば合併もやむをえない。合併しても今までの住み良さをなくさないでほしい。(二十代女性)

●今回の合併は行政の都合だ。生活の中ではデメリットの方が多いと感じる。もし合併ということになったら対等合併してもらいたいし、合併特例の恩恵はほとんど十日町が受けるのではないか。周辺となる仙田は取り残されてしま



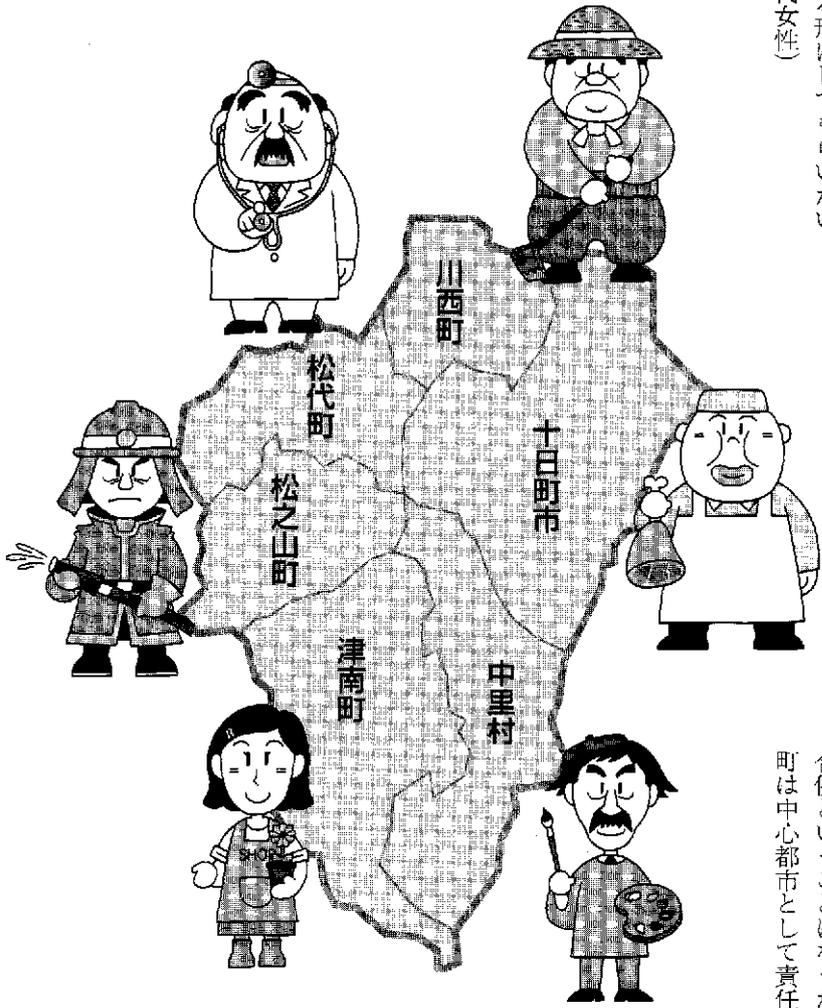
合併を考えることは、この子たちのことを考えることでもあります

う。(二十代男性)

●合併すると大きなところに巻き込まれて住民負担が増えると思う。(二十代女性他)

●十日町の意識が変わらない限り合併はうまくいかない。自治体の規模が大きくなると、職員の地域への意識が低下して「お役所化」してくる。現在の川西町の職員レベルは、平均をかなり上回っていると思う。(二十代女性)

●目先の特典のための合併なら必要ない。今の川西町を改めて見直し、必要になったら合併すればよい。ともかく大きな問題であるから、情報公開を願いたい。住民が納得する形にしてもらいたい。(二十代女性)



●各市町村長の受け止め方の違いが気になる。時間をかけて協力を制を作ってもらいたい。(四十代女性)

●合併すると、十日町市の赤字を川西町が背負うような気がする。税金だけが高くなり良いことがないような気がする。(四十代女性)

●川西町独自で立ち行くような方策を考える、そういう行政の姿勢がほしい。人を育て、「川西町」という地名が消えることのないようなまちづくりが目指せないか。十日町市と合併することに不安。(五十代女性)

●十日町に近い所に住んでいるので合併には抵抗ないが、寂しい気がする。今のままがいい。(五十代女性)

●合併しても、高齢化・過疎化はつきもの。補助金日当てではだめ。(五十代男性)

●政府の合併促進策は納得し難い。行政は小さくやっていければ、それが最善。もし合併ということになったら、合併前に流雪溝整備などしっかりとやってもらいたい。(五十代男性)

●合併すれば十日町だけ良くなり、周辺が良くなるとは思えない。特に仙田等は切捨てられる。もし合併ということになったら、十日町は中心都市として責任を持つて

地域全体の発展に寄与するとか、川西は農業と福祉、津南は林業とか役割分担を明確にした協定をすべきだ。また、新名称にしてもらいたい。(五十代男性)

●具体的な音写真がないと合併の良し悪しは分からない。合併を急ぐ理由が見当たらない。(五十代男性)

●川西町が合併しないで生き残っていくことを希望するが、合併は避けられないと思う。合併する場合、吸収合併は良くない。また、六市町村が望ましいが、三市町村での合併を先行してもよい。(五十代男性)

●川西町は他市町村よりも下水道などの整備が進んでいるので、合併するとまちづくりに足踏みを強いられているのではないかと、山間地は山間地同士で合併してもらいたい。(六十代女性)

●町職員のメリット、デメリットの意見に同感する。どちらが良いか、結論は急がなくていい。(六十代女性)

●住民の間で合併の気運は感じられない。重要事項なので期限までといわず、十分時間を掛けて協議してもらいたい。(六十代男性)

●特例法内の合併を、と言う前に原点に戻って考えてみてほしい。合併しなければ川西町は本当に取残されるのだろうか。英知を集め、将来にわたって立派に生き

ていける方法を見つけ出してほしい。(七十代以上男性)



問六で「合併は必要ない」と回答された方のご意見

●私は川西町が好きなので、「川西町」が無くなるなんて考えられない。(二十代女性)

●なぜ合併の必要があるのか、経緯などを住民にきちんと伝えていくのか、伝わっているのか疑問。行政上合併の利点が見出せても、住民としては、慣れ親しんだ自分の町が跡形もなく消えてしまいうで、不安と寂しさが感じられる。(二十代女性)

●合併すると川西町は、広い行政区域のはずれになってしまふ。今のままで特別困る事はないので合併しなくていい。(二十代男性)

●川西町は田舎なのが魅力で、もつと磨きをかけてもらいたい。合併しても、中途半端なさびれた片田舎が広がるだけで発展性がない。(四十代女性)

●合併は中心地の周辺に主体性のない「まち」が広がるだけではないか。教育・福祉など小さな声が行

政に届かなくなる。川西町は、声さえ出せば聞いてくれる耳を持っている。それぞれの市町村が、オラ方意識を持ちながら広域的に助け合っていく姿勢が望ましい。

(五十代女性)

●川西町は他市町村にない良いところがあるが、合併でゴタゴタして悪くなるのではないかと不安だ。(五十代女性)

●川西町が赤字になっても、一般企業のように倒産することはない。自然や人情が豊かでこじんまりとまとまった町が県下に一か所くらいあってもよいのでは。(七十代以上女性)

問六で「分からない」と回答された方のご意見

●以前合併したところはどうかだったとか、知らないことが多すぎて今はまだ判断できない。

(三十代女性)

●国・県側の合理性・効率性だけが目立ち、かつ、とても性急。したがって、住民による真の議論も未熟となりうる中で進む今後の合併にはとても不安がある。

(五十代男性)

●川西は、他地域に比べ農業、下水道、保健・福祉は進んでいると思う。合併によって後退するのではなくて、模範となるように。文化・伝統は守って、十日町などに

吸収されないように。

(七十代以上女性)

●まだ住民の間で合併への関心が低い。国からの交付金のためだけの早期合併はおかしい。

(七十代以上女性)

●具体的な事柄のメリット、デメリットを簡単な、分かりやすい言葉で知らせてほしい。

(七十代以上女性)

現在の合併問題に対する町の基本的な姿勢は、合併の是非に関しては白紙です。これは、合併することの影響、しないことの影響、近隣市町村との行政制度の違いなど、多くの情報を皆さんにお伝え

市町村合併についての懇談会

合併問題を地域の皆さんに直接説明し、率直なご意見を伺うための懇談会を開催します。大勢の皆さんのご参加をお待ちしております。(都合の良い会場にお越しください)

■日程/会場

三月十二日(火) 千手地区

総合センター

十三日(水) 仙田地区

克雪管理センター

二十五日(月) 上野地区

上野コミュニティセンター

二十六日(火) 橘地区

したなかで、お考えやお気持ちをもっともっと必要があるからと考えるからです。

今後の取組みについては、「市町村合併についての懇談会」の開催、四月以降としては、合併問題の住民検討組織の設置を予定しています。

また、関係市町村間で合併問題について、新たな展開ができるよう努めたいと考えています。町としては、これを経ながら、今秋以降に、より具体的な情報を明示した懇談会を集落単位ぐらいで実施したうえで、判断を固めていきたいと考えています。

高齢者コミュニティセンター
■時間 いずれも午後七時から

市町村合併についての疑問、質問、意見等がありましたら、文書にて(はがきでも封書でも可)様式自由(左記まで)お寄せください。本紙に掲載する必要がある場合は、紙上で紹介・回答します。

■お問い合わせ先

〒904-0101 川西町役場

総務課 市町村合併担当

☎68-3111(内線302)

里創プラン 通信

28

大地の芸術祭事業方針決定！(前編)

—現代アート作品づくりが始まります—



第二回大地の芸術祭に向け、平成十四年度の事業計画が決まりました。今年度は、住民と協働した一部のアート作品造りが進められます。今年度の目標は、①住民参加機会の積極的な創出 ②国際的な展開を含めた広報誘致活動の充実 ③会期運営をスムーズに運ぶための準備活動を中心に展開していきます。地域では、地域推進組織づくりを進めていきますので、皆さんのお力をお貸しください。

●アート作品が出現します

十三年度に引き続き作家が越後妻有においてになり、一部の作品制作活動や自然と一体となる作品の構想づくりが進められます。越後妻有のあちこちで、アーティストと出会う機会が増えますので、笑顔であいさつをお願いいたします。作品づくりに出たっては、地元集落との話し合いや協働作業を中心に進めていきます。

●ワークショップが行われます

地元住民がより作品づくりに関

われるように、作品づくりワークショップやアーティストとの交流会を開催します。アーティストと地域が一体となった作品づくりに努めます。

●地元での協賛イベントの構想を
大地の芸術祭を盛り上げていくためには、地域の皆様が自主的に行う協賛イベントがとても大切で、第二回大地の芸術祭に当たっては、協賛イベントに助成をしながら進めていきますので、ぜひ、各種団体で関連イベントの構想をお願いいたします。

●みんなが運営に加わるう

第二回大地の芸術祭をより効率的に運営していくために、各市町村推進組織と広報部等の専門各部会を立ち上げたいと考えています。皆様のご協力をお願いいたします。

生産調整目標面積を配分

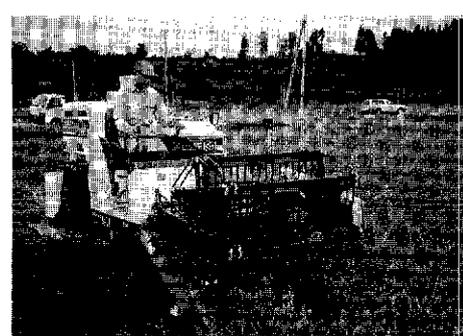
平成十四年度の生産調整目標面積が配分されました。
その内訳は一覧表のとおりですが、これに関連する国や町の施策も併せて紹介します。

平成十四年度は昨年とほぼ同規模

水田農業経営確立 対策とは

平成十二年度から五年間の計画で始まった「水田農業経営確立対策」は、需要に応じた米の計画的生産と、水田における大豆等土地利用型作物の本格的生産の実施に重点を置いています。

国産米在庫を適正水準に引き下げた中で米価を安定させ、水田を最大限に利用することで、米以外の作物から所得を確保し、稲作と



転作大豆の刈り取り作業

所得確保に町も支援します
平成十四年度集落別目標

平成14年度 集落別水稻作付面積のガイドライン及び生産調整目標面積一覧表 (単位:a)

集落名	集落別水稻作付可能面積	米の作付面積に関するガイドライン①	平成14年度生産調整目標面積②=③-④+⑤	生産調整目標面積の内訳					加工用米生産予定量(30kg)
				定着カウント面積③	加上用米カウント面積④	従来分面積⑤-1	転作等面積⑤⑤-2	転作等面積計	
東山	3,641.8	2,664.7	980.3	51.4	54.6	803.1	71.2	874.3	2,790
水口沢	2,572.2	1,879.8	692.4	3.2	38.7	600.2	50.3	650.5	1,980
中屋敷	2,434.9	1,779.5	655.4	6.3	37.0	564.5	47.6	612.1	1,890
上新井	2,228.0	1,670.0	599.8	59.4	33.5	463.3	43.6	506.9	1,710
沖立	11,056.3	8,080.2	2,976.1	8.9	166.4	2,584.6	216.2	2,800.8	8,520
伊友	6,844.1	5,001.8	1,842.3	4.0	103.3	1,601.1	133.9	1,735.0	5,280
高原	2,136.5	1,561.4	575.1	85.9	32.6	414.8	41.8	456.6	1,650
坪山	2,816.2	2,058.1	758.1	127.1	42.3	533.6	55.1	588.7	2,160
霜条	2,517.9	1,840.2	677.7	24.6	38.2	565.7	49.2	614.9	1,950
鶴吉	1,170.1	855.1	315.0	3.0	17.6	271.5	22.9	294.4	900
千手計	37,418.0	27,390.8	10,072.2	373.8	564.2	8,402.4	731.8	9,134.2	28,330
上野	5,759.4	4,210.5	1,550.3	134.4	86.9	1,216.4	112.6	1,329.0	4,440
元町	3,511.1	2,566.0	945.1	15.1	52.8	808.5	68.7	877.2	2,700
新町	4,497.3	3,286.7	1,210.6	33.3	67.5	1,021.8	88.0	1,109.8	3,450
下平	3,542.0	2,588.5	953.5	8.6	53.4	822.2	69.3	891.5	2,730
三鎮	1,910.9	1,396.5	514.4	0.0	28.8	448.2	37.4	485.6	1,470
小根	1,497.8	1,094.6	403.2	0.0	22.3	351.6	29.3	380.9	1,140
土野計	20,718.5	15,442.8	5,577.1	491.4	311.7	4,668.7	405.3	5,074.0	15,930
上落	6,258.6	4,573.9	1,684.7	0.0	94.5	1,467.8	122.4	1,590.2	4,830
寺ヶ崎	1,279.3	935.0	344.3	9.0	19.4	290.9	25.0	315.9	990
塩辛	766.4	560.1	206.3	3.0	11.7	176.6	15.0	191.6	600
仁田	6,080.9	4,444.1	1,636.8	0.0	91.6	1,426.3	118.9	1,545.2	4,680
野口	7,486.2	5,481.8	2,015.1	46.7	112.7	1,709.3	146.4	1,855.7	5,760
原出	2,264.1	1,654.6	609.5	29.8	34.1	501.3	44.3	545.6	1,740
根深	2,269.3	1,658.4	610.9	28.9	34.1	503.5	44.4	547.9	1,740
下原	2,846.6	2,080.3	766.3	0.0	42.5	668.1	55.7	723.8	2,190
四十歩	332.0	242.6	89.4	19.2	5.3	58.4	6.5	64.9	270
橋計	29,583.4	21,630.8	7,963.3	136.6	445.9	6,802.2	578.6	7,380.8	22,800
中仙	2,500.3	1,827.3	673.0	131.6	37.6	454.9	48.9	503.8	1,920
室島	1,732.2	1,323.2	466.3	167.5	25.8	239.1	33.9	273.0	1,320
小脇	1,290.4	955.1	347.3	125.6	19.4	177.1	25.2	202.3	990
高倉	741.9	546.7	199.7	264.0	11.2	-90.0	14.5	-75.5	570
藤沢	65.9	48.2	17.7	6.5	1.2	8.7	1.3	10.0	60
田戸	1,166.4	871.4	314.0	41.7	17.6	231.9	22.8	254.7	900
赤谷	2,218.1	1,636.6	597.1	62.7	33.6	457.4	43.4	500.8	1,710
岩瀬	2,403.0	1,756.2	646.8	289.0	36.4	274.4	47.0	321.4	1,860
大倉	329.1	247.6	88.5	103.2	4.7	-25.8	6.4	-19.4	240
大白倉	1,254.3	933.6	337.6	61.2	18.8	233.1	24.5	257.6	960
小白倉	2,220.0	1,622.6	597.4	100.0	33.5	420.5	43.4	463.9	1,710
佃計	15,921.6	11,768.5	4,285.4	1,333.0	239.8	2,381.3	311.3	2,692.6	12,240
川西町計	103,641.5	75,932.9	27,898.0	2,054.8	1,561.6	22,254.6	2,027.0	24,281.6	79,800

面積は左表のとおりです。
町では、平成十二年度から推進している大豆、そば等の団地・集団での栽培を軸に、米以外の作物からの収益と国の助成金とを合わせ、米に代わる所得の確保を推進しています。
この取り組みの如何が、農家所得に大きく影響を与えます。町としても集団転作への転換に対し、支援策を設けて推進を図っていきます。

併せて、大豆・そば・野菜などを栽培し地域内で消費する、いわゆる「地産地消」に結び付けて、転作田からの収益向上を図っています。

しかし、国の助成金などの利便な支援を受けるには、集落における目標面積の確実な達成が必須になります。各集落において、目標達成に向けて積極的な推進をお願いします。

上新井と舟場

「井」は「居」と同じで、新しく住みついたムラ——「新居」の意味であろう。「上」は、ウエでなく、既にあつたムラから見てカミの方にあるという位置關係を示しているのだから、下モの在りかが何処か分からないので、何ともいえない。

居を井と書く例は多く、津南町の大井平、十日町市の大井田などもそうであり、新井の呼び名は多い。

別に、一族の宗家（本家）をオイ（大居・大井）と呼ぶ例もある。大上ミ・大下モと同じく、敬って「居」に大を付けたもののようにある。その意味では、オオヤケ（大家）・オオメエ（大前）と呼ぶのも同じ類である。

千手城主であつた下平修理は、現在の発電所サージタンク周辺に居館を構えていたことから、地名の下平をとつてみずからの名乗りにしたと考えられるので、その上ミ手に当たる上新井であるとするば、ムラづくりの時代はそのころであろうとも思えるが、こういう勝手な想像は危険である。

下平氏は、はじめ信州で今井氏を称していた武将であるが、越後に入つて六日町坂戸城の長尾氏に仕え、高田春日山城の長尾氏（の上杉氏）に対抗する第一親拠

点として、千手城を守つた。下平に、平常に住む館（たて、やかた）を構え、長福寺を菩提寺に



下平氏の居城千手城（山頂）と菩提寺の長福寺（左下）

れている、鉢・中平・名ヶ山・樽沢の四集落は、もと上新井村に属していた。

いつのころか、信濃川にいくつかの中州（中島）ができて、そこへ出作りするものがあつた。やがて耕地が定まると、二、三戸と寄つてムラを立てた。

いまの十日町橋の上ミ手から妻有大橋までの間に、大小一〇島くらいあり、千手トンネル下方から上新井地内に続く島が一番大きくて、味籠島（御籠島とも）と呼ばれた。

おらむらの話

（第十一回）
上野 上村 政基

していた。春日山の長尾氏に直結する上野筋黒城主の上野源六家成と仲が悪く、千手・上野の境界の奪い合いではしばしば争っている。

また、六日町長尾氏と春日山とが和解したあと、下平氏は上杉謙信に従つて川中島の戦いに出たし、関東攻めの際には佐野の戦いで功績を認められ賞詞を受けている。その後、笹岡城（北蒲原郡）に移つて旧姓の今井氏にかえり、さらに会津方面に転じたらしい。

中州の村

現在は十日町市吉田地区に含ま

関わりがない。はじめから、別の成り立ちをしたものと思われるがいかがであるか。また、「上ミ」は中州から岸の上を眺めて付けた呼び名かもしれないが、疑問が大きい。

津出しと渡し舟

上新井には、沖立・友重・宗正を含めた郷藏があり、年の暮れになると、領主に納める年貢米を一時的にまとめて置き、上新井・沖立村が蔵番をつとめていた。雪消えを待つて舟で送るのだが、このことを津出しといつた。

上新井の岸辺は舟を出すのに都合がよかつたので、時折りは信濃川を上下する運送舟が立ち寄つて荷揚げをしたし、上流から木材を送る筏の休憩場所になつたりしていた。

古峯神社境内には、舟扱いの安全を祈る金比羅塔が祀られている。

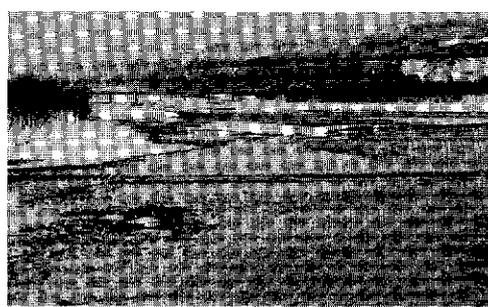
孫左衛門渡しは、川西の村々で知らぬものがないといわれるくらいに、大きな役割を果たしてきた。

「千手町から十日町 あいに（間に）千曲の大川 孫左衛門渡し」がなかよかる」と、村々の盆踊りで歌われた。「なかよかる」を、仲良かると誤解している人があるけれども、「無きやよかる」で、無ければよいのだが——の意味であ

る。

最初は、孫左衛門と呼ばれる田中氏一族が、中州の耕地へ舟で往き来していたものを、他の人たちが十日町方面へ川越えする便に頼み、漸次営業化するようになった。元禄年間（一七〇〇ごろ）に始めたらしいと語られている。

公許されたものでなく、私的な渡船場であつたから、近隣の村から「つなぎ」といわれる手当米が届けられて舟賃の代わりにあつた。



現在の信濃川にかつての渡し面の影はない（妻有大橋から十日町橋を望む）

川治村高山の名家から上野へ嫁入りするとき、大勢の人や送り荷の長い行列を渡すに四時間もかかつたとか、十日町大火の時には消防組が喧嘩腰でポンプを送つたとかいろいろな話がある。

長かつた孫左衛門渡しは、昭和初年の千手発電所工事着工で幕を閉じた。

TOPICS まちの話題 TOPICS

第二十四回 町民スキー大会

第十七回 小学校親善スキー大会

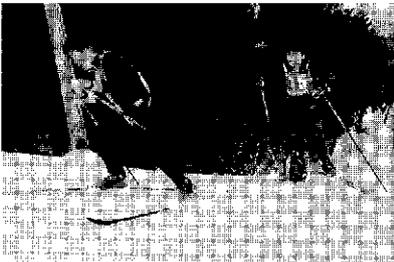
二月三日(日) 中子クロスカントリースキーコース

男子の部

女子の部

リレーの部

- 小学生4年(1.5km)
 - ①根津 元(上野)
 - ②丸山 廉太(千手)
 - ③押木 雄太(仙田)
 - ④高橋 大輝(千手)
 - ⑤小林 一輝(仙田)
 - ⑥押木 友裕(千手)
- 小学生5年(3km)
 - ①小川 諒兵(上野)
 - ②中條 和成(仙田)
 - ③登坂 拓矢(仙田)
 - ④川崎 茂人(千手)
 - ⑤太田 涉(千手)
 - ⑥稲田 岳(千手)
- 小学生6年(3km)
 - ①丸山 健志郎(千手)
 - ②小野塚 裕(千手)
 - ③村越 俊介(橋)
 - ④丸山 夏輝(千手)
 - ⑤山家 成幸(橋)
 - ⑥小幡 輝(橋)
- 中学生(6km)
 - ①南雲 革(二年)
 - ②田口 清貴(一年)
 - ③増田 勇士(二年)
 - ④高橋 直一(一年)
- 小学生4年(1.5km)
 - ①片桐 知美(千手)
 - ②高橋 莉子(上野)
 - ③丸山 理衣子(上野)
 - ④小海 彩乃(上野)
 - ⑤丸山 夏織(千手)
 - ⑥中村 恵利(千手)
- 小学生5年(2km)
 - ①樋口 奈央(仙田)
 - ②市川 ひかる(仙田)
 - ③高橋 咲希(千手)
 - ④中條 知佳(仙田)
 - ⑤星名 里香(千手)
 - ⑥山口 友紀(橋)
- 小学生6年(2km)
 - ①星名 美佳(千手)
 - ②蔵品 あゆみ(千手)
 - ③小海 菜奈(上野)
 - ④蔵品 麻弥(千手)
 - ⑤高橋 未来(上野)
 - ⑥田村 沙織(千手)
- 中学生(4km)
 - ①丸山 芽衣子(二年)
 - ②小林 圭子(三年)
 - ③登坂 歩(一年)
 - ④小林 友利恵(一年)
 - ⑤水品 貴絵(一年)
- 小学生男子(2km×3人)
 - ①ひまわりA
 - 丸山 健志郎
 - 小野塚 裕
 - 丸山 夏輝
 - ②橋ミラクルアゲイン
 - 村越 俊介
 - 山家 成幸
 - 小幡 輝
 - ③ひまわりB
 - 馬場 健介
 - 相崎 祐輝
 - 関口 誠
- 小学生女子(1.5km×3人)
 - ①ひまわりX
 - 蔵品 麻弥
 - 星名 美佳
 - 蔵品 あゆみ
 - ②TBA
 - 渡辺 響子
 - 藤巻 友佳
 - 中村 有希
 - ③ゴールドファルコン仙田
 - 樋口 奈央
 - 市川 ひかる
 - 中條 知佳
- 中学生男女混成(3km×3人)
 - ①川西中C
 - 高橋 直一
 - 登坂 歩
 - 田口 清貴
 - ②川西中A
 - 小林 圭子
 - 南雲 革
 - 水品 貴絵
 - ③川西中B
 - 増田 勇士
 - 丸山 芽衣子
 - 小林 友利恵



歯を食いしばり、最後の難関を上る様子

生涯学習だより ⑫

川西町でも冬季大会が開催される

ソルトレークシティでの冬季オリンピックが終わり、また県内では妙高国体で新潟県選手、川西町選手が活躍し、盛り上がりましたが、川西町でも先般スキー大会が開催されました。

今回で第十七回目の川西町小学校親善スキー大会が中子クロスカントリースキーコースで、町内小学校の四年生以上の児童により行われました。

この大会は町民スキー大会も兼ねており、中学生も含め総勢二三百人の選手が薄曇りの好天の中で頑張る姿が見られました。

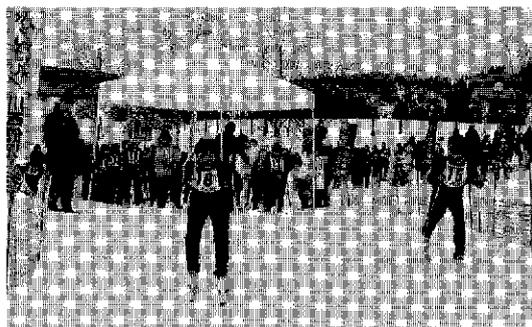
日曜日ということもあって応援にも大勢の人が集まり、会場やコース脇で声援を送っていました。

このように町内の小学生が集う大会は、親善水泳大会と親善陸上大会があり、競い合う事とともに親睦を図ることを目的としています。

小学生の選手たちは、一月中旬から学校のグラウンドや中子の大会用コースで練習を重ね、この大会に備えてきました。

この大会で上位に入賞した五年生と六年生の児童は、中越学童親善クロスカントリースキー大会へ

出場できる権利が与えられます。中越地区は県内でもスキーが盛んで、各市または郡から選抜された小学生が集まり、練習の成果を競い合います。



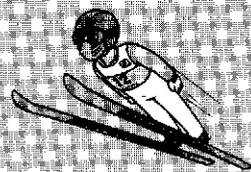
懸命に滑走する選手たち

その児童たちの中から、将来の国体選手やオリンピック選手たちが出てくることを期待したいと思います。

さて、もう三月です。雪のシーズンも終わろうとしています。これから雪消えを待つ春のスポーツシーズンが到来します。

皆さんも何かスポーツで体を動かして、気分も体も爽快にリフレッシュしてはいかがでしょうか。

各種 スキー大会 結果



第五十一回

全国高等学校 スキー大会

● 坪野高行さん (総合高二年)

男子10kmクラシカル 8位

男子15kmフリー 5位

男子40kmリレー 12位

● 登坂竜也さん (総合高二年)

男子10kmクラシカル 14位

男子40kmリレー 12位

第五十七回

国民体育大会

冬季大会

スキー競技会

● 星名知彦さん (役員)

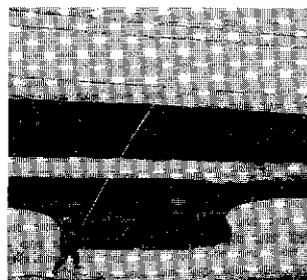
ノルディックコンバインド

(複合) 成年C 4位

文化財を守ろう！ 国重文 星名家住宅で 防火訓練

昭和24年1月26日、世界遺産にも登録されている世界最古の木造建築、法隆寺金堂から出火、貴重な壁画が焼失しました。これを教訓に、文化庁と消防庁は1月26日を「文化財防火デー」と定め、この日を中心に全国各地で文化財の防火演習などが行われています。川西町でも、1月29日、国の重要文化財である上野の星名家住宅で防火訓練が行われ、火災非常通報システムの点検と放水訓練が実施されました。

「地域の宝をみんなで火災から守ろう」という意識が大切ですね。



雪の中で行われた放水訓練

ズームアップ役場

No.11

あ？

居並ぶ町の執行部、中央の田口町長の話に耳を傾ける住民の人たち。しかし、よく見ると出席者は全員カメラを持参。中にはシャッターを切ろうという人も見えます。

では、町の幹部をモデルにした撮影会か？ まさか！



実は、これは平成十四年度の町予算案の記者公表でのひとコマ。地元紙、全国紙、テレビ局等の記者が予算案の説明を受け、「今年の目玉は？」「独自の事業か？」「その根拠は？」など鋭い質問を矢継ぎ早に投げかけます。

こうした洗礼を受けたあと、予算案は現在議会で審議中です。議決後の予算、「目玉」などは来月号に掲載します。乞ご期待。

だんだんとーま！⑦

「ヤマザキ式雪トヨ」の巻

「いやー、前つから使ってたけども、去年、人に作ってやったら喜ばれてそ」と、山崎芳夫さん(67/中央町)は、うれしそうに目を細めます。

山崎さんが指さしているのは自作の雪トヨ。

見、何の変哲もない雪トヨに見えますが、これには、山崎さんが十年ほど前からいろいろ試した工夫が込められています。



「タキロンを止めらんは銅線がいいの。釘だと割れてしまわんだて。それも四か所で充分。こうしておく、タキロンと棒の間に手を入れられて、持ち運びにバカいや

んだての」。

このアイデア満載のヤマザキ式雪トヨは、親戚や近所で静かなブームとか。(作り方は山崎さんがいつでも教えてくれます)

「こった、幅広のがんも作ってみよかと思つたらんだての」。楽しみながら雪掘りをする山崎さんの笑顔は、まるで少年のような輝きに満ちていました。

催し

必見!

NT21「県広報特番」
 「GOOGO」みれんジャー
 「わたしたちは本当に新潟のごみを減らすことができるのか」

■日時 三月十三日(水)
 午後七時～八時放送

「有機の里川西(上村源司会長)」による「生ごみリサイクル事業」の成果が放送されます。

知事から特命を受けた「ごみレんジャー」と一緒に、楽しく二十一世紀の循環型社会を考える番組です。
 家族みんなで見よう!

魚沼に見る地域づくり人づくり

地域づくりなどでユニークな活動に取り組み町として、「川西町」と「津南町」が注目され、これからの地域づくりの課題を考えます。

■日時 三月十七日(日) 午後一時三十分～四時

■会場 クロス10 中ホール

■報告

- ①「川西町の地域活動と住民意識の変化」渡辺正範氏(川西町総務課)
- ②「津南町の新規農業参入者の育成事業」涌井九八郎氏(津南町農政課)

《助言者》伊藤忠雄氏(新潟大学農学部)

■参加費 無料

大相撲講演 川西場所

「いい話」を聞いたリ、「おもしろい」と知り合ったり、「うどんめえもん」を食べたり。おおいに盛り上がりましょう。

■日時 三月二十一日(春分の日) 午後二時～

■会場 町総合センター 大ホール

■内容

◇はなし相撲 大相撲講演(参加無料)
 「大相撲が教えてくれるもの」
 講師 NHK新潟放送局 政野光伯氏
 (大相撲実況アナウンサー)

◇わら相撲 一人の手で、わらで作る(参加無料)
 土俵の儀の展示
 編まない、わらのリースづくりなどの体験

◇ごつつお相撲 品持ち寄りごつつ(参加無料)
 (会場、参加申し込み必要)
 会費2,000円、ただし、料理1品を持参の方は1,500円)

■申込期限 三月十八日(月)

■申し込み、問い合わせ先

秋まちづくり川西(総合センター内) ☎61-1515
 千手温泉 千年の湯 ☎63-2988

募集

仙田農村公園 釣り橋名を募集!



町では、仙田農村公園(仙田体験交流館の西側)に「釣り橋」の架橋を進めています。そこで住民の皆さんから親しみをもち、利用していただくことを願い、橋の名前を募集します。

■応募条件

・町民であること

・仙田農村公園にふさわしい名称であること

・現在、浜海川に架橋している橋名と重複しないこと

■応募方法 一人一点とし、官製はがきに橋の名前、名前の理由、住所、氏名を記入し、役場農林課へ郵送してください。

■応募期間

三月十日(日)～四月十日(水)

●応募先 〒948-0192 川西町大字水口沢二 農林課整備係

●特典 採用者には、釣り橋渡り初めに招待のほか、仙田地区の特産品を贈呈します。

その他

六日町児童相談所

からお知らせ

四月から県の機構改正により地域福祉センターと保健所が組織統合されますが、相談所業務は引き続き現在の場所(上越線六日町駅前)で行い、住所などの変更ありません。

◎六日町児童相談所・六日町身体障害者更生相談所・六日町知的障害者更生相談所
 住所 南魚沼郡六日町大字六日町二一〇

電話 0257-7012400
 FAX 0257-7218123

相談

司法書士と社会福祉士による

第十回シルバー110番

高齢者などのあらゆる問題に、専門家がアドバイスをします。

■日時 三月十七日(日) 午前十時～午後四時

■面談会場 アトリウム長岡(長岡市丁町一丁目五番一号)

■電話番号 0258-3913022(当日のみ)

※面談による相談は、予約制です。ご希望の方は、☎025-228-11727へ事前にご予約ください

い。相談は無料で、秘密は厳守します。

春一番

交通安全キャンペーン実施中

【期間 三月二十五日(月)まで】

◎歩行者の方は・・・

- ・道路を横断するときは青信号でも、左右の安全をよく確かめてから横断しましょう
- ・歩行者の方も、交通ルールを守って道路を歩きましょう

◎ドライバーの方は・・・

- ・安全速度を守って、ゆとりある運転を心掛けましょう
- ・交差点では、左右の安全確認を確実にに行いましょう
- ・お年寄りに優しい運転を心掛けましょう

製本しませんか

広報かわにし

ご家庭や職場でつづつある「広報かわにし」を製本しませんか。四百八十五号(平成十一年一月号)から五百二十三号(今年号)までの製本をあげさせていただきます。ご希望の方は、製本する広報をお持ちのうえ役場総務課文書広報係 ☎68-3111 内線305)までお申し込みください。

●価格 五、五〇〇円(税別)

●申し込み期限 三月二十九日

※広報をお持ちいただいてから製本されるまで一か月ほどかかります。

善意

(敬称略)

福社に
 星名 洋一(沖立) 五万円
 村山 進一(伊友) 五万円
 和久井富夫(木落) 十万円

戸籍の窓から

高砂一〇円満に

(清水 宏 下平新田 仁田)
 (高橋 克幸 学校町 十日町市)
 (宮沢 友子 十日町市 木島)
 (小林 正英 長岡市 長岡市)
 (横山 美希 長岡市 長岡市)

昇天一〇めい福を祈る

小野塚政市(本人) 中央町 88
 村山 義雄(進一) 伊友 82
 金子 勝司(猛) 岩瀬 85
 南雲 キク(信雄) 寺尾 76
 保坂 正晴(本人) 高原田 72
 田辺 菊井(勝義) 神社町 88
 茂野 シゲ(文司) 高原田 92
 和久井 精一(伸一) 木落 91
 渡辺 シゲ(孝平) 上野 91
 吉楽 常作(本人) 中央町 62

うぶ声一〇おすこやかに

高橋 萌(英香) 中仙田
 田中 瑠佳(幸稔) 隆代
 佐藤 由侑(隆朗) 下平新田
 星名 茉桜(亮祐) 霜条
 数藤 真翔(光紀) 霜条
 登坂 悠生(幸雄) 岩瀬
 (2月1日、28日届け出順)



かわいし俳壇

高崎 正風 選

山門の仁王ゆすりて春一番
 北向きの庫裡の残雪しぶとくて
 ぐしの藁銜え鳥立つ春の寺
 上町 高橋 願似
 抑留の兵も斯く老い冬籠り
 春半ば猫の額の庭作る
 冬籠る日々しみみと老うはいや
 練馬区 須藤 遊人
 目貼りして家棲み古りてゆくばかり
 神棚も仏具も浄め年用意
 太陽の病むかに雪の降り止まず
 中屋敷 金子 鉄平
 夫遺す寒梅凜と咲きにけり
 子ども等はみな成人や雛飾り
 田中 石澤 澄代
 煮菜の香外に流るる雪解かな
 引き込みし野菜も底の二月かな
 山野田 藤田ひろ志
 菜の花を買い足しして忌日かな
 春暁のポストに新聞届く音
 野口 村越 由喜
 待侘びし家のまわりの春の音
 結婚を讀う雪まつりの広場
 霜条 星名 星光

ふんわりと五感包める十布団
 雪の尾根竜頭のような雲這える
 新町新田 若山 向山
 瀨の音も頼うつ風も春近し
 診療の番を待つ皆着ぶくれて
 小白倉 田中 優美
 凍て滝の水音細く寒明けける
 信濃路の豪農館大水柱
 岩瀬 登坂伊智子
 旅さそう折込みチラシ春隣
 父は下戸母酒好きやぬくめ酒
 小白倉 江口みゆき
 寒雀寄り添い合うて親子らし
 うららかやパンくず蒔いて鳩を呼ぶ
 八王子市 松浦 サク
 旅人に万里の長城春浅き
 遠き日のカレーの味や鬼やらい
 足立区 涌井ハル子
 暖冬の春思わせて今日の雪
 残雪に桃の一枝折られたる
 霜条 蔵品ハツエ
 みの笠の川釣りの人春近し
 一つ咲きまた一つ咲き沈丁花
 杉並区 根津 晴代
 年代の伝わる雛を飾りけり
 会場も出店も流行り雪祭り
 山野田 中条 石平
 春雨や遠く山家の灯が見えて
 一村の眠りて春の天地かな
 元町 田畑 吉治

休日救急医

- 3月21日 小林内科医院 (十日町市中袋町) ☎ 52-7155
- 24日 池田医院 (十日町市本町西1) ☎ 52-2581
- 31日 山口医院 (十日町市袋町中) ☎ 52-2174
- 4月7日 大熊内科医院 (十日町市山本町1) ☎ 52-7066
- 津南病院 (津南町大割野) ☎ 65-3161
- 14日 山口医院 (十日町市下条中央) ☎ 55-2003
- 21日 大島医院 (十日町市川原町) ☎ 52-2957

タバコの害!

最近、歩きながらタバコを吸う若い人(特に女性)をよく見かけますが、あまり格好の良いものではありません。タバコが健康に及ぼす影響については、知らない人は多いはずですが、それでもなかなかやめられないこのタバコの害についてもう一度考えてみましょう。



「副流煙」です。発癌物質などの有害物質は、副流煙に多く含まれています。ですから、タバコを吸わない人でも、吸う人の傍にいますと嫌でも有害物質を吸ってしまうこととなります。

タバコが原因で引き起こされる病気は、肺病だけではなく、他にも喉頭痛、胃痛、肺気腫、脳梗塞、心筋梗塞等たくさんあります。そして、タバコを吸わない人より吸う人の方が、これらの病気になる確率は、何倍も高くなるのです。

タバコが止められないのは、その中に含まれるニコチンのためです。殺虫剤の成分にもなるニコチンですが、少量では神経を興奮させたり、リラクセスさせたりする効果があります。タバコを吸ってしばらくすると、ニコチンが体から出て行ってしまおうので、イライラしたり禁断症状が出現します。そうするとまた吸ってしまう、ということの繰り返しになる訳です。

タバコの煙には、二種類あります。タバコから直接吸い込む「主流煙」とタバコの先端から出る

ただ、タバコを吸う本人だけが病気になるのであれば自業自得で仕方ありませんが、一緒に生活している、愛する家族までもがタバコの被害にあつても構いませんか? 最後に、タバコを一本吸うと寿命が五分間短縮される、ということをお忘れなく。





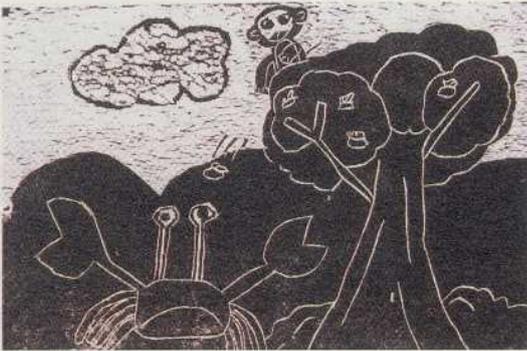
▶「雪の山のきつねたち」
6年生 茂野真子さん



▶「はい どうぞ」
6年生 押木翔太くん



▶「いじわるたぬきを
やっつけるぞ」
3年生 樋口真央さん



▶「さるをやっつけろ」
4年生 小林一輝くん



▶「そおつと行こう！」
5年生 中條知佳さん



▶「ゆらゆら コロコロ」
1年生 全 員



▶「きらきら2年生」
2年生 全 員

(4月号は川西中学校です)

雪原に広がる黒いまだら模様

雪原に広がる黒いまだら模様。田んぼや畑に土や灰をまいて雪消えを早める作業は、かつてはどこでも見られたが、今では珍しい風景になった。

斎藤龍平さん(82/上野)は、その数少なくなった伝統行事を守っている一人だ。

「ずっと昔からやってるんだんが。秋に作ったもみ殻が煙炭を二袋とっておいて、雪が降り止まったところにまいてらんだて」。これをまくことによって、消雪は一週間ほど早まるとのこと。

「毎年、五月菜を親戚や子どものところへ送ってやらんが張り合いで。朝摘んだのをその日のうちに送るんだが、「菜っぱがしやんと立ってる」そつてうれしがらんだて」と語る斎藤さんの横顔はとてもうれしそうだった。春はもうすぐそこだ。

